

9章は、生まれつきの盲人の目が見えるようになることを通して、主イエスが世の光としてこの世に来られたのは、見えない者が見えるようになるため(9:39)であることを証言します。

### (1) 主イエス、生まれつきの盲人に出会う

8章で主イエスは「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から『わたしはある』と、かつてモーセが神の山で神から受けた自己啓示の言葉を用いて、ご自分がアブラハム以前から存在したことを証言しました。この自己証言に続く9章で、主イエスは、生まれつきの盲人に出会われます。

### (2) 弟子たちの質問「罪や苦難の因果」

弟子たちは、主イエスに対し、この人が生まれつき目が見えないのは、誰の罪に原因があるのですか、本人ですか、両親ですか、と尋ねます。

当時の社会では、肉体的障害と霊的・道徳的過失とは相関関係で捉えられ、身体障害者差別に対する自戒心はありませんでした。

### (3) 主イエスの声明と御業

しかし、これらの観念に対して主は、これらを拒否して障害の克服を声明されます。

①本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるため。

②わたしは世にいる間、世の光である。わたしたち(主共にいます教会信徒も含む)は、わたし(主)をお遣わしになった方(父なる神)の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。

③主イエスは地面に唾をし、土をこねてその人の目に塗り、「シロアム『遣わされた者』の池に行って洗いなさい」と言われ、彼は行って洗うと、目が見えるようになって帰って来た。

### (4) 目が見えるようになった人と、その隣人たち

①「目が見えるようになった人」について、隣人達の見解は「これは座って物乞いをしていた人ではないか」「いや似ているが違う」と錯綜するも、本人はきっぱり「わたしがそうなのです」と証します。

②隣人達の「お前の目はどのようにして開いたのか」との質問に対し、その人は自分の身に起きた主の御業の事実のままを証します。

③「その人は何所にいるのか」との質問に対しては、彼は主イエスがどなたであるかを確信しつつも「知りません」と答えます。

※現代社会にも共通する面がありますが、当時のイスラエル社会(旧約時代、ヨブ記にもみられる)には、障害や苦難や不幸を罪の因果応報とみるのが一般的でした。しかし主イエスは、障害の原因を過去の因果に捜すのではなく、障害は神の御業が現れるためであると、この人の将来に向けて見出されました。そしてこの人は、主イエスが自分の目に泥を塗り『遣わされた者』と呼ばれる池に行って洗いなさい』と言われた御言葉通りに信じて実行することによって癒されたのでした。主イエスの唾や泥に癒されたのではなく、主イエスの『(神から)遣わされた者』の池に行って洗いなさい』との御言葉に素直に聴き従うことによって癒されたのでした。

肝心なことは、過去への追求ではなく、今ここで主の御言葉に聴き従うことであり、神の御業に与ることなのです。神の御業に与ることは、私達も全てが生まれつきの霊的障害者であることをわきまえること、そして世の光である主イエスの御言葉を学び、信じて従うことであり、主イエスの御業に参加して行くことです。(佐々木弘至)

---

## 9月16日 「生まれつきの盲人のいやし」 説教展開例

---

テキスト ヨハネによる福音書9章1～12節  
参照カテキズム 子どもカテキズム 問13, 14, 27, 81

---

### 〔単元のねらい〕

子どもの語る説教は、つねに教理的な説教です。それは何も、テキストを横において、教理そのものを教えるわけではありません。テキストが指し示す教会の教えが何かを、説教者自身がよく捉えることなしに、福音のメッセージが際立つことはほとんど難しいからです。ここでは、先ず一つは、子どもカテキズム問13の「摂理」の神の勝利を証します。しかもこの摂理が主イエス・キリストを通して結実することを語るのです。主イエスを信じることのない摂理信仰は、容易にご利益信仰へと転落します。盲人信徒の存在は、このテキストに光を当てるでしょう。肉眼は開かなくても、なお神に感謝し、賛美しておられるのです。日本キリスト改革派教会静岡教会には、多くの盲信徒が、信仰生活に励んでおられます。もう一つは、御国と御心を祈り求める信仰です。ここでも主と共に働くべき子どもキリストの教会の姿が描かれます。また、先週とは異なり、主を裏切らない弟子のあり方の事例をも指し示すことができます。

---

## 「振り返らないで、神を見よう！」

---

今日も、イエスさまのお話ができることを嬉しく思います。皆で、聖書のお話を聴くことは、イエスさまを礼拝することです。心を込めて、お話しします。みんなも、心を込めてイエスさまの御言葉を聴いてください。

イエスさまは、いつものように伝道のために一生懸命働いておられます。そんなある日、イエスさまは、通りすがりに生まれつき目の見えない人を見かけられました。するとそばにいた弟子たちがこのような質問をしたのです。「先生、この人が生まれつき目が見えないのは、どうしてですか。いったい誰が罪を犯したからこんな目にあっているのですか。本人の罪のせいですか。それとも両親の罪のせいですか。」

どうしてこんな質問をするのでしょうか。みんなはどう思いますか。実は、このような考えは、世界中でなされています。特に、日本では、今でも、あちらこちらでなされています。今、苦しいことや、つらいこと、不幸なことがあるのは、誰かが悪いことをしたからその罰が当たっているんだなんて言うわけです。ある人は、まじめな顔をして、こんなことを言うのです。「あなたが今、不幸な

目にあっているのは、あなたが生まれる前に、とても悪いことをしたからです。前世の因縁があるのです。」前世とは、人が今その人として生まれる前のときのことを言うのです。インネンとは、そのときに犯した罪のことで、つまり「たたり」のことです。たたられているからだと言うのです。もちろん、そんなことはでたらめです！ある人は、人間として生まれる前に、犬だったとか、ゴキブリだったとか言うのです。でたらめです。

騙されないでください！ 僕たち私たちの命は一度限りのものです。みんなのお友達のなかには、「人間って、一度死んでも、生まれ変わってまた生きることができるんだ」なんてことをまじめに信じている子もいるでしょう。命はゲームのようにリセットボタンを押して、やり直せません。そして、前の人生のたたりとかのろいとか、罪によって今の人生があるなんていうのありません。

聖書にはそんなことは書いていません。今朝、聖書を通して、イエスさまが宣言してくださいませ。よく聴いてください。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」つまり、のろい

とかたたりとかインネンとか、ぜんぶ嘘っぱちということ。そのようなことは、要するに過去のことで。過ぎ去った昔のことをひとつひとつ思い出して、あんなことをしちゃったからもうだめだとか、あんな悪いことをしちゃったからもう神さまに愛されないとか、悪いことが起こっても仕方がないとか、そんなことは考えなくて良いのです。前を向いてください。神さまが必ず素晴らしいことをしてくださるからです。いえ、もうすでに始まっているのです。

さて、そう仰せになると、すぐにイエスさまは地面に座り込まれます。つばで土をこねておられます。まるでどろんこ遊びみたいです。すると突然、イエスさまは、その泥を、目の見えない人の目にお塗りになられました。

みんなは人間がどのようにして神さまに造られたか覚えていますか。土のちりで作られたのでしたね。そして神さまの命の息を鼻から吹き入れられたのでした。そうして、人間は人間になったのでした。先生は、このイエスさまのふるまいがまるで、そのようなことを思い出させてくださるためであったかのように思えるのです。

イエスさまは、そればかりか、「シロアムの池に行って洗いなさい」ともお命じになられました。ヨハネによる福音書を書いたヨハネさんは、シロアムというのは、「遣わされた者、つまり、お仕事をするために送り出された者」という意味なのですよと教えてくれました。つまり、ヨハネさんは、「天の神さま、天のお父さまのお仕事をするために送り出された人はイエスさまなんだよ。だから、イエスさまのところに行けばよいのだよ。」と、教えたがっているのです。

そして、この生まれながらの盲人は、イエスさまに言われたとおりシロアムの池に行きました。洗いました。するとどうでしょう。見えるようになったのです。時間がかかりましたが、このときこそ、神の御業が目に見えたのです。でも、大切なことは、イエスさまが「現れるためである！」

と宣言されたときに、神さまの御業は始まっていたのです。それなら、今朝、僕たち私たちにも、同じことが始まっていますよ。信じるあなたにも、必ず、神さまの栄光が現されます。

先生は、むかし静岡盲人伝道センターがある教会に行ったことがあります。多くの目が見えない人たちが通っている教会です。でも、みんな明るく元気に讃美歌を歌っていました。とても励まされました。生まれながら目の見えない人も、途中で目が見えなくなった人もおられました。この人のように、イエスさまを信じたのです。ところが、目が見えるようにはならなかったのです。それなら、やっぱりイエスさまを信じてもしかたがないのでしょうか。違います。その方々は、心の目ははっきりと開かれました。そして、目には見えない神さまを信仰の眼で仰ぎ見ることができておられるのです。そして希望をもって、イエスさまのお仕事をなさっておられました。

イエスさまは、続けてこうも仰せになられました。「わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。」ここでイエスさまは、「わたし」ではなくて、たしかに「わたしたち」って言われましたね。イエスさまを信じている僕たち私たちのことです。イエスさまだけではなく、イエスさまを信じている僕たち私たちも、イエスさまと一緒に、天のお父さま、神さまのお仕事をしなければならぬとお招きくださったのです。イエスさまは今、天におられます。たった今も、イエスさまは天のお父様の隣で、僕たち私たちのために働いておられるのです。

この人は、イエスさまの弟子の一人になって行きます。僕たち私たちの先輩なのです。私たちも、おかしなことを言われて悲しんでいるお友達や、怖がっているお友達に、「イエスさまを信じれば大丈夫。イエスさまのところ、教会と一緒に行こう。」と声をかけて行きましょう。

(相馬伸郎)

---

[今週の暗唱聖句] ヨハネによる福音書 9章3節後半

本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。

神の業がこの人に現れるためである。

---

## 〈ねらい〉

イエス様は、目の見えない人がそうなったのは誰かのせいではなく、神様の業がその人に現われるためである、とおっしゃいました。私たちは過去ではなく、これから神様に従っていくことによって、恵をいただくことができるのです。だれでも神様に従うとき、限りない希望が与えられます。そのことを感謝しよう。

## 〈展開例〉

関教会に、90歳の古田さんというおばあさんがいらっしやいます。古田さんは、小さい頃から目が見えません。私たちは古田さんが大好きで、尊敬しています。イエス様を心から信じてみえて、とても優しいすてきなおばあさんです。毎週朝、夕の礼拝に出て、御言葉を一生懸命学んでおられます。私たちは古田さんから教えられることがたくさんあります。目に見える人には信じられないほど、何でもできます。マフラーやセーターを自分で編んで着ておられます。手で触れることで、まるで目で見えているようにわかるのです。イエス様を信じる時、心の目が開かれ、光が与えられ、見えるようになることが、ここに証明されています。

生まれつき目の見えない人を見かけたとき、イエス様に弟子の一人が聞きました。「この人の目の見えないのは誰のせいですか？」するとイエス様は、「それは神様の業が、その人に現れるためです。」と言われました。そして泥を唾でこねて目につけ、シロアムの池に行き洗うように言われました。みんなだったらどうするかな？「そんなことをしたら、よけいに目が汚くなって、よけいに悪くなってしまふよー。」って言うかも知れないね。でも、その人がイエス様に言われた通りにすると、目が見えるようになりました。

イエス様に素直に従うことによっていやされたのです。目が見える私たちも、神様の前では見えない人と同じです。過ぎ去ったことにとらわれなくてもいいのです。神様はすばらしいことをして下さいます。悲しんだり怖がったりしているお友だちに、「イエス様を信じれば大丈夫。イエス様のところ、教会に、一緒に行こう。」と言ってみましょう。

## 〈おいのり〉

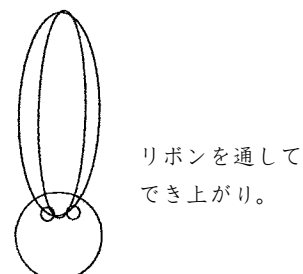
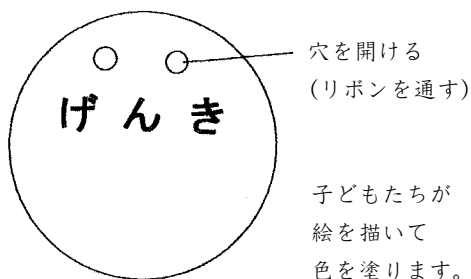
弱い私たちが不幸だと思っているところに、神様は光を当てて下さり、強く生きていけるように導いて下さることを感謝します。

## 〈やってみよう〉

## 「元気メダル」をつくらう

【用意する物】 厚紙（ワッペン用）、リボン、色鉛筆か色ペン

今日は敬老の日です。おじいさん、おばあさんの健康を願って、「元気メダル」をプレゼントしよう。



### 〈ねらい〉

わたしたちにとって、困ったこと、嫌なこと、つらいことの中に、意外にも、神様の最もよく、賢く、力強い、考えやご計画が隠されていて、それが行なわれることを通して、神様の御栄光が現されることを知る。

### 〈展開例〉

1. 生まれつき目が見えないとはどういうことでしょうか。想像してみてください。

⇒光、色、形、まわりの人の姿、自分を見守る人のまなざし……などが、分からないとは？子どもたちと一緒に考えて見ましょう。

2. 礼拝のお話に出てきた、生まれつき目の見えない人は、どうして見えないのでしょうか。あなたのまわりには、生まれつき目の見えない人や、体の不自由な人はありますか。どうして、生まれながら、障害をもっているのでしょうか。その人や、その人の家族が何か悪いことをして、「罰が当たった」のでしょうか。

⇒因果応報の考えから解放されていることを伝えたい。その一方で、罪の深みにはまり込まないための警告・神様の愛の鞭としての罰はあるかもしれません。(エレミヤ31:27以下参照)

3. イエス様は、何のために、生まれつき目の見えない人の目を開けられたのでしょうか。目を開いていただいた人は、何が見えるようになったのでしょうか。行って目を洗うように言われた池の名前は何か。どのような意味がありましたか。

⇒文字通り目が見えるようになっただけでなく、神様の御業、御栄光、ご計画が見えるようにされました。また、イエス様のそばにいた弟子たちの信仰の目も開かれ、神様のわざのため共に働くことに招かれていることを悟りました。そして、わたしたちも弟子たちの後輩です。

4. あなたは、目が見えていますか。光、色、形、

まわりの人の姿、自分を見守る人のまなざし……などが分かりますか。わたしたちの見る本当の光とは何ですか。わたしたちを見守るイエス様のまなざしに気づきましたか。その光は、どうして本当の光なのでしょう。

⇒あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる(マタイ28:19~20)。主が共にいてくださることは、「わたしがそうなのです」(9節)ということのできる安心につながります。

### 〈おいのり〉

神様、わたしたちを暗いところから光の中へ、罪から命へと救い出してくださいましたことを感謝いたします。わたしたちにとって、困ったこと、嫌なこと、つらいことの中にも、神様がよいと考えておられるご計画のあることを分かるようにさせてください。また、困ったこと、嫌なこと、つらいことの中にある家族や友だちを思いやり、助けることのできる子どもとならせてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。



神の業がこの人に現れるためである。

〈ねらい〉

今日の目の見えない人が見えるようになった話には、霊肉の両面の変化が語られていることを学ぶ。

〈聖書の言葉〉

業、遣わず、物乞い

〈展開例〉

①2節で、弟子たちはなぜ目の見えない人を見かけて「だれが罪を犯したのか」と聞いたのでしょうか。

→当時のユダヤ人たちの常識として、障害があるのは罪によるのだという迷信があったからです。このような考え方は、社会的強者である健常者が弱者である障害者を差別するもので、今日では決して許されることではありません。しかし、このような差別は現代日本でも起こりうることを注意しておかなくてはなりません。また、迷信ではなくとも、科学的因果関係ということで犯人探しがされることもあるかもしれません。しかし、そのような知識は、人の罪を助長し、人を傷つけるだけで救うことはできません。

②では、イエスさまは何のためにこの人の目が見えないのだと答えられましたか（3節）。

→イエスさまは、誰の罪のせいでもなく、「神の業がこの人に現れるため」と明言されました。これは、イエスさまの教える信仰的な考え方が、①に述べたような常識的な考え方とは根本的に違うことを示しています。

③イエスさまの言葉によってこの目の見えない人に奇跡が起きました。この人に起こった二つの良いことをあげてみましょう（7、9～12節）。

→一つは、イエスさまの言われたとおりシロアムの池に行き目を洗ったら見えなかった目が見えるようになったことです。もう一つは、（う

やむやにしようと思えばできないこともなかったのに）自分がイエスさまに従っていることをはっきりと告白したことです。ここで、前回のベトザタの池にいた人と比較してみると良いでしょう。ベトザタの人の方は、周りのユダヤ人たちにイエスさまに従っていることを非難されるとすぐにイエスさまを悪者にしてしまいました。これではイエスさまに従っているとはいえません。しかし、今日の目が見えるようになった人は、イエスさまに従っていることを明らかにし、イエスさまを悪者にすることはありませんでした。両者の場合に共通して、イエスさまの側に立つことは多くのユダヤ人に敵対することになり危険なことでした（13～34節に具体的に語られています）。けれどもこの人はそれを承知でイエスさまに従っていると公言したわけです。これは、罪の支配にとどまることから決別し、イエスさまの僕として歩み始めたことを意味しています。

④その二つのうちどちらがよりすばらしいことだと言えますか。

→子どもたちは目が見えることの方に価値を見出すかもしれません。確かに、目がみえるようになる奇跡はとてつもなくすばらしいことです。しかし、聖書の語るメッセージは、これが単なるしるしに過ぎないということを語りたいと思います。すなわち、イエスさまに従うことを決心し、救いに入れられるということは、目が見えるようになることよりはるかにすばらしいことなのです。それは、ベトザタの人の話が、病氣は癒されたものの希望のない状態にとどまってしまったことと比較するとよくわかります。ですから、ここで目が見えるようになったということは、信仰的な目が開かれたという比喻でもあります。逆に言いますと、健常であっても信仰的な目が開かれていない人は困難で悲惨な状態なのです。

## 〈ねらい〉

神様の御業が現されることを信じる。

## 〈展開例〉

## 1. 聖書をもう一度読む

## 2. 分かち合い

Q. 説教を聴いて教えられたこと、心に響いたこと、実行しようと心を動かされたことは？

Q. 分からなかったことは？

## 3. 質問例

※質問例は、それぞれのクラスの实情に合わせてアレンジしてください、解答例は子供達の答えを補足したり、教えたりするのにお用いくださいと思います。

Q. 弟子達はイエス様に、生まれつき目の見えない人のことでどのように尋ねましたか？

→この人の視覚障害の原因について尋ねた。

Q. 弟子達の質問は当時のユダヤ人の障害や苦難に遭っている人に対する見方を反映していると言えます。しかしこれは約2000年前のユダヤに特有の見方でしょうか？ こういった見方に関して、見聞きしたことがあれば話してください。

→時代と場所を越えて世界中で今もこのような因果応報の考えがなされている。自分や家族の苦境が前世の因縁や悪いことをしたからと言われ、高い壺を買うように勧められたりすることもある。周囲の人々の差別と偏見が当人とご家族の苦しみをどれだけ増していることだろうか？ その聖書的典型としてヨブ記の苦難の人ヨブの友人達がいる。彼らは因果応報の考えに凝り固まっており、ヨブが正しく、罪を犯していないなら、どうして財産、家族を失い、皮膚病となって生きながら死人のような有様にヨブがなるだろうかと言って、慰めるどころか、かえってヨブの悩みを深める結果となった。神様は彼らが御自分に

ついて正しく語らなかつたとおっしゃられた。

Q. 生まれつき目の見えない人の障害の原因を尋ねた弟子達とイエス様では、同じ人の同じ状態を見ても決定的に見方が異なりました。これこそ私達が障害や苦難に遭っている人を見て考える時の見方であり、私達は悩んでいる本人や家族にこの福音を伝えなくてはなりません。イエス様はどのように見られたのでしょうか？

→生まれつき目の見えない人の障害の原因を問うのではなく、目的をご覧になられた。過去の原因を探るのでなく、将来彼の上を実現する神様の目的という視点で現在を見られた。これが弟子達を始めとする当時のユダヤ人と、世の人達とイエス様の異なる点である。

Q. イエス様が「神の業がこの人に現れるためである。」(3節)とおっしゃったことは、どのように実現しましたか？ 私達にはどうでしょうか？

→彼はイエス様に目をいやしていただいた。先週学んだベトザタの池の病人のようにイエス様を裏切って、これからは自分の好きなように生きることが出来たはずであった。しかし彼はユダヤ人たちの前でイエス様を弁護し、会堂から追放されて村八分とされた。そのことにおいてイエス様と共に「わたしをお遣わしになった方の業を」(4節)を行なった。そのようなイエス様と共に働く、霊的にも目が見えるまことの信仰者となることにおいて、神の業は彼に現れ、そして私達に現れるのである。

## 4. お祈り

障害や苦難に遭っている人に、私達に神の業が現れるように。

※一人一人に祈りの課題を出してもらったり、自然に浮かび上がってきた課題を祈っても良いと思います。